

主イエスの「正体

(ヨハネ8・12〜20)

一、「わたしは世の光です」

12節をご覧ください。イエスは再び人々に語られた。「わたしは世の光です。わたしに従う者は、決して闇の中を歩むことがなく、いのちの光を持ちます。」とあります。主イエスはこのことばを、いつ、どこで、だれに対して語られたのでしょうか。まず「いつ」ですが、その前をさかのぼると分かります。7章53節から8章11節までは挿入部分なので横に置いておきまして、7章37節をご覧ください。さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立ち上がり、大きな声で言われた。「だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。」とあります。何の祭りだったのでしょうか。さらにさかのぼり、7章2節に、**「時に、仮庵の祭りというユダヤ人の祭りが近づいていた。」**とあります。というわけで8章12節は、仮庵の祭りで語られたことばとして読むと見えなかったものが見えてまいります。しかも、仮庵の祭りの最後の日のことであつたと考えられます。仮庵の祭りは八日間行われました。

ところで仮庵の祭りは、どんな祭りだったのでしょうか。この祭りの時、イスラエルの民は仮小屋を造り、八日間

そこで過ごしました。仮庵の祭りには、二つの意味合いがありました。一つは収穫祭です。もう一つは、エジプトを脱出したイスラエルの民が荒野で四十年過ごしたことを思い起こす祭りでした。8章12節は、後者の、エジプトを脱出して荒野でさ迷ったことを思い描くと見えてくると思われます。と言いますのは、主は、昼は雲の柱、夜は火の柱となつて民を導き、敵から守られたからです。主イエスがおっしゃった「わたしは世の光です。わたしに従う者は、決して闇の中を歩むことがなく、いのちの光を持ちます」に、昼は雲の柱、夜は火の柱としてご自身を現された主を思い起こしたらいかがでしょうか。

二、「わたしはある」

主イエスを疑い、反対していたパリサイ人は語りました。13節です。すると、パリサイ人はイエスに言った。「あなたは自分で自分のことを証していません。だから、あなたの証しは真実ではありません。」と。たしかに、主イエスが普通にユダヤ人の一人であつたなら、問題発言です。しかし主イエスは、ヨハネの福音書が次のように証言しているお方です。**「初めにことばがあつた。ことばは神とともにあつた。ことばは神であつた。この方は、初めに神とともにおられた。すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方**

によらずにできたものは一つもなかった。」と(ヨハ1・1〜3)。したがってして、何の問題もありません。

新約聖書は、主イエスが神ご自身にして読むと、すんなり読めます。そのような意図で書かれているからです。今回のテキストの範囲外になりますが、8章24節に次のように書かれています。**「わたしが『わたしはある』であること**を信じなければ、あなたがたは、自分の罪の中で死ぬことになるからです。」とあります。「わたしはある」とは、神がご自身をモーセに現された名です。ヘブライ語に時制はありませんので、「わたしはある」とは「わたしははじめから存在し、今存在し、将来も存在する」という意味になります。まさしく、創造主にふさわしい名です。

三、「わたしのさばきは真実です」

15節で「あなたがたは肉によってさばきますが」と主イエスはおっしゃいました。おおよそ私たちが人をさばくときに、まちがいが起こります。律法に精通していたパリサイ人たち、そして律法学者たちが律法を用いて人をさばくことにより、神の正しさが表れることはありませんでした。人は、どのようにしても神の義を表すことはできないのです。ところが、主イエス・キリストはどうでしょうか。「わたしはだれも

さばきません。たとえ、わたしがさばくとしても、わたしのさばきは真実です」とおっしゃいました。なぜ主イエス・キリストがかかわられると、神の義が現れるのでしょうか。それは主イエスが、私たちのようにさばかれないからです。主イエスは、神としてさばかれるからです。

7章53節から8章11節は挿入部分です。新改訳2017の脚注に、**「古い写本のほとんどが7・53〜8・11を欠いていて、この部分を含む異本間の違いも大きい。この部分がルカの福音書に含まれている異本もある。」**とあります。そうであるなら、7章53節から8章11節がヨハネの福音書の、しかも8章12節の前に組み込まれている理由を知りたいです。私は、ここに挿入した人(なしいしは教会)は、主イエスのことばである「わたしはだれもさばきません。たとえ、わたしがさばくとしても、わたしのさばきは真実です」の実例として、入れたのではないかと考えます。

挿入部分は、だれかが神の前に大きな過ちを犯した場合の、基本的な考え方です。「私はあなたを罪に定めません。あなたの罪は主イエス・キリストが十字架で贖ってください」が、私共が主から授かった信仰であり、いのちです。この姿勢が、人をみこころに添った悔い改めへと導きます。私共に必要なのは、主にゆだねる聖霊の導きです。